

愛の精神

はんぶんこの福祉

社会福祉法人さがみ愛育会
〒252-0206

相模原市中央区淵野辺 1-16-5 愛の園ふちのべこども園内 4F 法人本部

TEL 042-707-8881 FAX 042-707-8882

ホームページ <http://www.aiikukai.or.jp> Eメール info@aiikukai.or.jp

(編集発行人 小林祐子)



「ワクチン注射しますよ」
「おねがいします」

地域社会に向けて「いま」私
たちができることは何か
望まれていることは何か
という問いかけから生まれた、
「さがみ愛育会ワクチン接種
大作戦」です。



中学生の被接種者も切実です。
新学期がスタートし、ひとた
び感染が起これば、クラス
ターになりかねません。

障がい者のなかには、「注射」
というキーワードにパニック
になってしまう人もいました
が、生命を守るために…とい
うことを分かって頂き、接種
致しました。



このさがみ愛育会の取り組み
にご理解を頂き、相模原市長
さんも激励に駆けつけてくれ
ました。
私たちができること、これか
ら一歩ずつ謙虚な姿勢で取
り組んでまいります。

キリストの教えと福祉 その③

我が法人の創設者「松岡キン」は、神学者“賀川豊彦”から受洗したキリスト者でした。そこで現法人理事の「伊藤忠彦」牧師による“神の教えと福祉について”の解説をお願い致しました。伊藤氏はいま、学校法人和泉短期大学の理事長です。

聖書のローマの信徒への手紙15章1節に「私たち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません…」とあります。

自分には力があると自認する人は、助けを必要とする、隣人の力になるべきです。聖書はこう教えています。「私たち強い者は」という、“強い”は、「力ある」とも訳せるギリシャ語なのです。

そして「私は強い」とか、また「自分は全く無力だ」とも断言することはできません。私たちは神さまから一人々々異なった生きる力を頂いているからです。隣人が困っている時、悩み苦しみ、途方に暮れているのを見ても、自分には関わりのないことで、面倒なことになると避けてしまうのではなく、何かしら役に立つのではないか、この位なら出来るのではないか…そう思って立ち上がりなさいと勧められているのです。



理事・牧師 伊藤忠彦



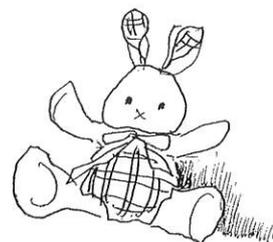
「あーん」
愛の園ふちのべこども園 分園まほろば

理事長日記

10月1日より緊急事態宣言期間が解除になりました。感染者が減少をしている現状での解除です。ワクチン接種率が高まり、行動規制など感染予防対策の効果なのでしょうが、もちろん感染者がなくなった訳ではありません。何とか、この情報誌が発刊する11月頃には、ゼロを期待していますが…。まずは発足した新内閣等に次の波への確実な対策と日々の潤いのある生活を希望いたします。

当法人のセーフティガード支援隊が取り組んだ職域接種も9月1日、2日、29日、30日と4日間かけて2回接種を市内にある和泉短期大学体育館を会場に、実施することが出来ました。900人以上の方々がお出でになり、当法人各事業所の嘱託医5名とともに職員の看護師、会場係など、数十名が対応する布陣でした。当法人内の職員は既に接種済みでしたが、園児や利用者のご家族と知人、インターネット応募による一般の方や集体会場で接種困難な障がい者の方々、そして市外の方々や、12歳以上の小・中学生もお出でになる多数のみなさんの接種への思いを受け止めることが出来ました。接種が済みほっとした様子や接種済みマークのクッキーを手にして、チョピリお顔が綻びながら玄関を出る姿にお出で頂けたことへの感謝の思いでいっぱいです。

本事業の費用については当法人のはんぶんこ福祉基金を活用させて頂きました。皆様方の温かな寄付金が沢山の皆様の生命を守ることに役立つことが出来たことは本当に有り難く感謝しております。今後も当法人の取り組みにご理解を頂きご支援を下さるようお願い申し上げます。また、我が法人の有意義な活動を推進するためにも皆様方から、温かいご意見やご感想を期待しています。



悠々デイサービスセンターの一日 —みんなの居場所づくり—



製作の一コマ：男性陣も夢中になって取り組んでいます。
「これはこうすべきなのだろうね」



カラオケ中の一コマ
マスクをしながらもカラオケに興が入り踊りだします



「ねー、ちょっとずれているわよ」
「はいはい、全集中しますよ」



フィールドデイ(運動会)の練習を見て
「一生懸命走っているわね」

悠々は幸いなことに新型コロナウイルス感染症の発生が抑えられ、感染症対策が日常化した現在でも、多くのご利用者がお元気にお出で下さります。感染の拡大当初は外出することが少なくなったことによる他者との交流機会の減少や下肢筋力が低下する方もおられ、居宅介護支援事業所では利用計画の再検討を一から行い、その方その方にマッチした計画を再作成してきました。

また通所介護では職員一人ひとりが感染症対策を徹底しながら、多様な年齢や介護保険を受けているご利用者のみなさまが安心してサービスを利用しながら、生きがいを引き出せるように努めてまいりました。そのためには行政から発信される情報を常に意識しながら、介護予防を行うだけでなく、利用者同士や子ども達とのかかわり、物づくりやレクリエーション等、身体を動かしながらの活動を重視してきました。ご利用者の方からの不安感等やお困りがあっても、それを受けとめながら生きがいをもって生きていけるよう支援することがどんな時代であっても大切なことだと思っているからです。

悠々デイサービスセンター 総務 黒崎里恵



避難訓練のひとつコマ
「子ども達、上手に避難しているわね」

特集 子育て・子育て支援を優先する 持続可能な福祉社会を目指して

「2030年問題」、それは日本の人口3分の1が65歳以上になるという非常事態です。その結果、生産人口や消費の担い手が減り、経済成長が鈍化するので社会保障を支える財源が確保できなくなります。しかも、年金制度は現役世代が納める保険料がそのまま高齢者支給になる賦課方式ですから、さらに事態は深刻です。その解決策は、何より出生率を高めること、そして少しでも長く働き続ける雇用環境の改善にあります。それが、それには女性の社会参加を大幅に促進する社会構造に変えねばなりません。処がもともと、日本の税制や社会保障制度は、サラリーマンと専業主婦という世帯像を想定した構造によって成り立っています。それを欧米諸国のように男女平等の雇用制度に変えようとしても、日本の風土は昔から代々プライベートな家庭育児が基本なので、国民合意を得るのは容易なことではありません。ましてや、結婚や子どもの有無に関わらず、国民が保険料一定額を負担するような「児童年金制度」の導

入はとも望めないでしょう。ちなみにその年金制度には、現行税制の扶養控除はもとより、児童手当、特別扶養手当、そして企業からの扶養家族手当を合算すれば豊かな財源を確保することが出来るのですが……。しかるに、その児童手当が無理ならば当面、現制度の改善を期待しながら女性の社会参加とともに、出生率を高める取り組みとして私達にできるのは何か、試行錯誤することから始めます。いうまでもなく、女性の就労率を高めるには、十分な出産育児への支援体制の充実強化にあります。それゆえまずは、現行の保育制度や福祉政策を中心に、元厚生省児童家庭局長だった「清水康之」氏にお願いし、これからの政策的な福祉動向や方向性等を解説していただきました。但し、ご本人からご執筆したのが8月なので、その後の福祉を取り巻く政治状況が大きく変化していることをご承知いただきたい、というコメントが届いております。その清水氏は局長時代、我が園が取り組んでいた制度から外れた実践を評

価して下さり、全国制度の「地域子育て支援事業」として制度化し、発展させた方です。

多様な福祉ニーズへの対応

1 はじめに

旧知の松岡俊彦氏から、さがみ愛育会の情報誌に何か寄稿するようにとの要請があった。今から、4半世紀ほど前、小生が厚生省児童家庭局長をしていた頃、保育現場から考えた様々な助言をいただいたことを思い出し、保育を取り巻く最近の課題について十分な情報を持ち合わせているわけではないものの、日頃いろいろ考えていることを述べてみることにしたい。近年における急速な少子高齢化の進展により政府が掲げた希望合計特殊出生率1・8とか、将来の総人口1億確保といった目標はこのままではほぼ実現不可能とみられる今日、政府は6月に決定したいわゆる骨太の方針で、グリーン社会の実現・デジタル化の実現・地方の活性化と並んで少子化の克服を重点課題に掲げ、来年度予算の編成を行うと述べている。2030年頃には、かなりの自治体で保育所の定員過剰が生じると指摘されており、どのようにして全国各地において多様化する福祉サービスを確保するかが問われており、少子化の克服に向けた



「みてみて！ いっしょにあそぼうよ」
認定こども園 すこやか

総合的かつ具体的な方針を早急に示すことが期待されている。

2 量と質の確保―期待される法人

本部の役割強化

数年前から大きな政治課題となっていた待機児童問題は関係者の努力により保育所等の増設が進み、今日では一部の都市に限定された課題となりつつあり、むしろ多様な保育サービスの提供と質の確保が全国的に重視されるようになってきている。質の確保にとって、①保育士の処遇改善や潜在保育士等の活用、②最低基準（3対1や6対1等）の見直し、が課題であると同時に、③事故対策や防災訓練の充実強化、④機器の活用等の安全対策―特に近年のコロナ対応に見られる休園が継続か、登園

(5)

制限か自粛要請か等を巡る統一した基準の作成 ⑤第三者評価の受審促進等があげられるが、とりわけ重要と考えられるのは、法人本部の機能強化である。古くは、1法人1施設という原則の下で自治体からの措置委託をベースに運営されてきた社会福祉法人も、時代とともに変化し、1法人で複数の同種施設を運営したり、複数かつ多種の施設―例えば保育所と障害児施設や介護施設等―を運営するようになり、「管理から経営へ」という流れの下で大きな発展を遂げるようになってきた。さがみ愛育会は創設者の松岡キン氏の「行政指導を受けながらもそれを超えた独自事業を開拓する」という信念の下に、設立当初から多様な保育ニ―



「ゆらゆら、おもしろいね」
認定こども園 すこやか

ズに応えるべく努力され、現在法人参与として活躍されているご子息の下で行政依存型に留まらず多様な福祉ニーズに応えるべく地域の福祉セクターを目指して頑張っている。このように多くの施設と多数の職員を抱える社会福祉法人にとっては、複雑な会計処理を求める財務管理や適切な人事労務管理、そして将来展望等を含む企画広報活動など法人本部が対応する機能強化が不可欠となりつつある。20施設600名を超える職員集団が、法人本部を核に結束する体制を確立した「さがみ愛育会のガバナンス体制」は、今後の発展を目指す多くの社会福祉法人にとって参考になるものである。国や自治体もこのような潮流を重視し、法人本部に複数の専任職員を配置できるように財源措置を講ずべきであり、各施設からの分担金だけで賄う仕組みを見直す必要がある。法人側も非課税措置を活用して寄付金や賛助会員の会費等を集めたり、後援会の結成等に尽力しながら、地域が必要と考える自主事業の展開を可能とする努力が求められよう。

3 これまでに行われた改革と包摂

性的ある社会の実現への貢献

前述したように国や自治体への要望等を述べてみたが、これまで国や自治体が様々な制度改革や財源確保

4 むすび

政府は首相の指示のもと、できるだけ早い時期に「こども庁」を設置すべく、内閣官房に準備室を設置したと報じられている。厚生労働省、文部科学省、内閣府等に分かれている子どもを巡る行政を、強い調整機能をもつ専任の大臣を設け、子ども関連予算の一元的策定と確保を図り、縦割りになりがちな省庁と現場を担当する横割りの市町村、そしてその中間で調整機能が期待される都道府県との連携を図り、国際的な比較を行いつつ子育てを巡る環境改善に取り組む姿勢を示している。しかし、一方では長年の勘案と行われていた「幼保一元化」は検討対象から除外するという報道もあり、早くも関係各省の利害を巡り混乱が生じているとも伝えられる。肝心なことは役所が新設されることなく、どのような改革を行うのかということであるが、子育て支援の大きな一翼を担っている保育関係者にとって、様々な要望を行う絶好のチャンスでもあり、この機会を逃さず保育関係者の意見を集約して実現に向け、積極的な要望活動を行うことが期待される。この寄稿文が、何らかの参考になれば望外の幸である。

NPO法人福祉総合評価機構
顧問 清水康之

「福祉セーフティガード支援隊」の活動から

この度、当法人が行う職域接種を受けました。私は東京都目黒区にある保育園の園長を務めさせて頂いております。東京都の新型コロナウイルス感染者が増加の一途を辿るなか、本来であれば先頭を切ってワクチンを接種し、感染対策に力を入れるべきなのに、その機会に恵まれず…。しかも、目黒区の職域接種も見通しが立たず、地元相模原市の40代接種の予約にチャレンジしましたが、モタモタする合間に予約がいっぱいになってしまいました。接種をする機会を失い呆然としていたところ、法人事業が1000人を対象に職域接種を行うことを知りました。藁をも掴む思いで予約をして、今回は無事に1回目を接種することができました。2回目は4週間後です。接種したとはいえ、まだまだ安心できませんが、満員電車で通勤する私にとってワクチンを接種したという事実は、気持ちの上で少しゆとりが持てそうです。

中目黒駅前保育園 園長 山本清吾

「私が、ワクチンの提供者側になるの？」と、最初は驚き戸惑いながら、準備が始まった法人の職域接種。

私自身は、大規模接種会場でのワクチン接種を済ませていましたが、今回私は看護師として、医療班の全体調整役として参加することになりました。

いざ迎えた当日。私は全体を周知する立場にいたため、あちこちに顔を出して流れを把握していました。どの職員も初めての業務とは思えないほど、持ち場の仕事をスムーズに行なっていて、職員間の見事なチームワークの良さを感じました。車椅子の方への導線配慮や、小さなお子様連れの方への対応、来場者の方の状況に応じて、さっと臨機応変に動く職員を見て、さがみ愛育会の職員の色を感じました。

医療の提供は、安心・安全が大前提です。接種直後の体調変化にも気を使います。緊張を持っての4日間でしたが、大きな滞りもなく、無事に実施することが出来たこと、また私自身としても貴重な経験をさせて頂いたことに心から感謝しております。

愛の園ふちのべこども園

保健師・保育士 澤口絵理

以上、清水氏から待機児童問題等をクリアした今後は、多様な保育機能と保育の質向上が課題になるというご指摘を頂きました。その現場はいま、総力を挙げて新型コロナウイルスと対峙していますが、その取り組みの過程から女性を取り巻く構造的な課題が急浮上してきたのです。配偶者の暴力、性的犯罪、自殺者の急増、そして生活不安やストレスの高まり等、弱い立場の女性へのしわ寄せが一举に押し寄せたからです。もともと、働く女性の半数は非正規ですから、コロナ禍によって減給や

失業が相継ぎ、潜在化していた雇用環境の貧しさを露呈することになりました。それゆえ、厳しい不況下にあっても何とか日常生活を維持するには、正社員雇用になることしかありません。そのためには、働く女性群に信頼され安心して任せられる保育所やこども園の存在が欠かせません。処が、一方において伝統的な日本の子育て観は、今なお母子のスキルシップが前提になるといふ神話に縛られ、おおよそ半数程度の女性群は就学前の社会参加を控えているのが実情です。時代が変わり、かつての貧困な保育の現場は去り、いまや

高度な専門性を有する豊かな保育条件が確立され、単相化した核家族の家庭育児より遥かに優れた子育て、子育て環境にあるのです。それゆえ、その固定観念を克服する有効な取り組みが課題ですが、まずは、0歳から3歳までの教育や保育の質的向上に努めることが大切です。その上で、誰もが自治体から指定された地域の保育園や認定こども園等に、自由に出入り可能な育児システムが定着すれば理想的です。例えば、保健所を経由して公的に指定された保育施設等に出産前から登録し、通常保育、特定一時預かり保育、緊急保育等の

活用に加えて、育児講座、育児情報、開放保育、子育て広場、育児相談等をフルに活用できれば、きっと児童虐待の予防にも繋がることでしょう。できれば児童虐待問題も、都道府県から身近な市町村の機能に変更できれば、地域資源の活用等を通して予防効果にも有効でしょうね。微力ながら、我が法人は「あすなろみらいプロジェクト」を立ち上げ、来るべき「2030」年問題など迫ってくる構造的な課題をクリアすべき具体的な方針や、取り組み等を検討していく所存です。

法人参与 松岡俊彦

賛助会員寄附金及び一般寄附金受領報告

令和3年6月1日～令和3年9月30日 (順不同・敬称略)

一般寄附金

清水康之	武石宣子	匿名希望	井上嘉久	遠山洋一	薄井敏郎	匿名希望
繁多進	横山淳一	和田希美	小林祐子	松岡裕	匿名希望	増田まゆみ
岸義吉	細田のぞみ	伊東和夫	佐藤祥子	匿名希望		
一般寄附金合計						19件 418,000円 ①

賛助会員寄附金

川崎以付史	薦田洋子	若林文子	小野塚豊治	匿名希望
賛助会員寄附金合計				5件 49,000円 ②
① + ②				467,000円

この期間内に皆様から頂いた寄付金合計は以上の額になりました。ご寄付を下さった多くの皆様方、ありがとうございました。寄付金の中にはセーフティガード支援隊事業に直接仲間入りし、急遽ご寄付をいただいた方もあり心から感謝しております。早速ながら「はんぶんこ福祉基金」に積み立て、「同福祉基金運営委員会」のご承認を頂いて、その基金を法人本部が行う「福祉セーフティガード支援隊事業」に活用させて頂く所存です。今回は9月1日、2日と9月29日、30日に実施した「さがみ愛育会ワクチン接種大作戦」に活用させて頂きました。この接種会には900人の方々がお出で下さり2回のワクチン接種をすることができました。協力していただいた多くの皆様、声かけを下さった自治会の役員の皆様、有難うございました。利用者のご家族だけでなく地域の皆様、学生の方々等、多くの接種希望者にお出で下さり、実施してよかったなと実感しております。

(報告者 総合施設長 松岡 潤)



「泥パック サイコー!!」
認定こども園 すこやか



「なにをして あそぶ?と会議中」
しいのき保育園

年を取ると、足腰が弱ったり、忘れものが増えたり...でも愉快なこともあるもんじゃな。今まで聞こえていた音の世界が途絶え始め、日常会話さえままならない。だから家内との会話もテンプレカンペン...、表情や動作を見ながら、適切な相槌を打つのが、誰かが見てたら笑っちゃうぐらいな。補聴器を入れても、ガーガーピーピーと雑音ばかり、会議などスピーカーにかじり付いたまま知ったかぶり。だからドラマを見ても、演歌を聞いても若い頃とは違ったイメージが湧いてきよるぜ。これって何か、新しい文化とか未知の世界に、はまってしまったような感じで、それでいてけっこう楽しいもんじゃよ。



保育園時代の思い出

評議員 石田秀孝

この度、さがみ愛育会の評議員を拝命致しました石田です。当愛育会との関わりは、昭和58年4月に娘が1才児になり、初代松岡キン氏のお計らいで入園させて戴き、63年度の卒園以来、今日迄キン氏、俊彦氏、裕氏へと三代に渡り諸事学ばせて頂いております。初代キン氏とは時折りお話をする機会があって、戦後の混乱期、衣食住に事欠いていた中で失礼ですが「少しばかり経験や知識があっただけで、なぜ他人の子まで預かる保育所を開設しようと思われたのですか」と伺った処、「石田さん何事も信念を持って当たれば道は開けると思います。最後まであきらめないで前進して見る事だと思いますよ」と語るキン氏の目がキラキラと輝き、私も目頭

が熱くなったことを思い出します。これぞ初代理事長が解かれた慈愛の精神であり、「であいふれあいめぐりあい」を大切にすることだとの教えでした。例えば、少子高齢化社会への対応等で相模原市でも小学校の統廃合が加速するという報道もありますが、当法人はすばらしい組織力を持っているので、十分に対応できるものと信じています。現総合施設長の潤氏のご活躍も期待致しております。また、園内諸行事に参加させていただき折々、当園職員の献身的な行動には心から敬意を表しています。このすばらしい法人情報誌「愛の精神はんぶんこ」の福祉への初投稿に際し、さがみ愛育会の70余年の足跡に私自身がいま取り組んでいる自分史編纂の一頁に、深く留め置きたく存じておる次第です。

あすなるみらいプロジェクト

当法人の新規事業「あすなるみらいプロジェクト」がスタートしました。

昭和から平成、そして令和と変わり、弱者救済型の福祉ニーズの時代から、利用者を選ぶ福祉へと変革し、福祉供給者に求められているものが確実に様変わりしてきました。属性分野の各論を追求する福祉の時代から、縦割り福祉制度を横断し、地域が本当に求める福祉事業、福祉サービスを法人がつくり出していくことが、社会から求められるようになったのです。

そんな視点から、さがみ愛育会では明日の主要事業を育てる「種まき」を若い世代から始めていかなければという危機感をもとに、「あすなるみらいプロジェクト」を立ち上げました。「あすなる」という木が意味するところは「ひのきを超えるような大木に明日は、なろう」ということになります。

現在の「保育、教育、高齢者介護、障がい者福祉、自立支援、相談事業」などの柱から、次の時代の新たな柱を見据えて、いま行動を起こし、たゆまない改革を起こしていかなければなりません。

この「あすなるみらいプロジェクト」の新規メンバーは、「若者」だけではなく、また福祉

だけを専門にやってきた人ではない「異業種出身」の方も多く加えています。その意味は「福祉畑の井の中の蛙」にならないこと、新しいアイデアをどんどん提供してもらうためなのです。

元飲食店店長、IT企業エンジニア、広告会社デザイナー、大工職などなど「福祉」ではないバックグラウンドを積極的に活かしてもらいたいからです。

これまでに、「おとな専用のヘルスケア事業」、「医療的ケアを必要とする人のための保育園」「農業生産から直接、ITを使った全国販売」など面白いアイデアがたくさん生まれてきました。そして一番大事な事として「失敗」や「ミス」を批判するような姿勢の会議体にならないこと、前向きで肯定的な雰囲気の中で、意見を出しやすいようにする点に力点を置き、会議体を進めていく計画であるということです。

それが、きっと新しい時代の福祉事業を創造する力になると思っています。

今後、どのような花が実るかは未だ未知数ですが、まずは明日にむけての第一歩が動き始めました。みなさまの温かいご理解とご関心をいただければ、幸いです。 常務理事 松岡 裕

食べることは
いきること

どんなこともやってみる！
子どもと成長していく食育

「杉山先生くお皿ピカピカだよ…見て見て」「お野菜も食べたよ」と嬉しそうにお話する子ども達。少し前まで「食べたくない、きらい」なんて言っていたのになあ…と驚く毎日です。もちろん明日も頑張ろうという私の活力にもなっていますが「残しちゃった…」という声も大切にしています。ところで子ども達は「知らないもの＝嫌いなもの」と認識することが多いため、限られた園生活で沢山のことを知る環境作りと、様々な体験が出来る『子ども主体の食育活動』に力を入れています。例えば野菜の栽培、収穫、どう料理するのかまで、子ども達が本を見て話し合いながら考えます。胡瓜



「おかわりちょうだい!!」

栄養士 杉山春恵

(認定こども園きらきら
ドーナツを作ったこともありましたが、意外と美味しかったですよ。だから子ども達の発想は楽しくて私自身も発見がいっぱいです。また栄養についてのクイズは好評で大人だけでなく子ども達も美肌に興味津々：コロナ禍だからこそ出来る食育を考え、日々子ども達とともに成長し楽しく過ごしています。

施設長です こんにちは 19



「こうのとり橋本保育園」園長の藤原俊貴です。当園は、相模原市緑区の橋本駅近くにあります。早朝から夜間の時間まで安心して働き、子育てができる場所を目指して開園しました。子どもと保育者のふれあいを大切にすることを前提に、力強く生きる乳幼児の成長と発達を支援しています。私は同法人「愛の園ふちのべこども園」の前身「瀏野辺保育園」の卒園児です。当時の記憶はおぼろげですが、今でも思い出せることが三つあります。一つは「保育園が楽しかったこと」2歳児から学童3年生までお世話になりました。次に「保育士さんが大好きだったこと」、当時から男性職員の方がいましたし、現在も同法人内に多数在職しています。そして最後は「たくさんの人たちに出会ったこと」です。個性のある友達、外国籍や障がいのある友達と

分け隔てなく、ともに保育園で過ごせたことは、私の保育に対する考えの土台になっています。私が現場の保育士から、こうして園長をしていることは偶然です。ですが、当時「瀏野辺保育園」の園長だった松岡俊彦さん（現法人参与）の子ども達との関わりはとても魅力的でした。法人参与との出会いが、ここで園長をしているきっかけになったことは間違いありません。同じことはできませんが、自分なりに経験を収斂し、当園の活動につなげていきたいと日々試行錯誤を重ねているところです。



～ 掲 示 板 ～

【法人本部の予定】

理事会

日 時 令和4年1月29日(土) 13:30～
議 題 令和3年度補正予算について他

施設長会①

日 時 令和3年11月15日(月) 18:00～

施設長会②

日 時 令和4年1月17日(月) 18:00～

法人オリジナル事業として本年度内に予定していた役職員合同研修会・スリーSのつとい・法人内福祉実践活動研究発表大会・赤沢自然塾・内部監査等は、新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、もう少しだけ先延ばしすることに致しました。



「ブROCK-Guiter」
ふちのべ美邦こども園

福祉キーワード

「地域との関わり」

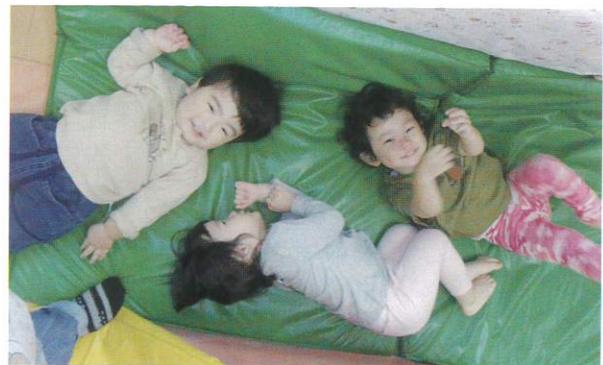
「地域交流」という言葉を調べてみると、「各施設がある地域の一員として施設の隣近所の方々、学校、老人会、高齢者包括支援センターなどと協力しながら施設運営をしていきます」という意味があるそうです。私たち法人の福祉施設の多くは、住宅街に隣接していますので、地域との関わりは切っても切り離せないものになっています。

こども園や保育園、福祉施設等の諸行事には、近隣のボランティアの方にも毎回ご尽力いただき、イベント運営が滞りなく行われています。また、利用者さんの働く場として、店舗を構えている中で喫茶や仕出し弁当の配達を通して、身近に地域の人々との関わりを持てるコミュニティ社会があるのだと痛感しております。

ここ数年、人と人のつながりを通して、利用者が作った作品などを地域のお店等に置かせて頂いております。製品を一つのツールとして地域と関わりを持ちながら、「地域の中の施設」として定着し、今後も活動していきたいと願っています。

生活介護支援事業所 キッチンハウス下九沢

上原 薫



「ちょっと休憩中で一す」
愛の園ふちのべこども園 分園まほろば

編集後記



ふちのおもいで...

初めて、編集作業の中心になった18号ですが何とか発刊することができて、ほっとひと安心…、読み返していると、じわじわと嬉しい気持ちが湧いてきました。

その反面、「どうしよう次回の表紙は…」と考えこんでしまう毎日が始まりました。

娘からも「誰に話してるの？ひとりごと。」なんて…。何かしている時でもブツブツ言っているのだそうです。

とうとう夢にまででてきて、「これだー!!」と目覚めました。

そんな神経質な私なのに、仕事帰りつついついコンビニに寄り、いろんなスイーツを買ってしまいます。家事が一段落すると、一口食べては、「おいしい」と叫びながら我を忘れて至福のひとときを過ごしています。このとおりの単純明快な私ですが、どうぞ今後ともよろしく…。

編集担当 笹谷有希